



# 政務活動報告書

令和元年 11 月 12 日

〔会派名： 心風会 〕

代表者氏名	永岡 禎 	記録者氏名	荊原 広樹 
活動者氏名	荊原 広樹		
活動日	令和元年 10 月 23 日 (水)		
活動先	衆議院会館		
活動目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幼児保育料無償化に伴う、名張市の負担額</li><li>・ 今後の名張市の展望や予算配分</li></ul>		



日程 10月23日(水)

場所 衆議院会館

目的 幼児保育料無償化に伴う、名張市の負担額

今後の名張市の展望や予算配分

担当 内閣府子ども・子育て本部参事官 中村 健太郎様

概要

令和元年10月1日より幼児保育料の無償化が始まった。当初は国が全額負担の予定であったが、地方にも負担を求めるということで、4分の1に相当する部分が名張市の負担となる。財政状況の苦しい中の負担増は死活問題になってはならないので、内閣府に聞き取り調査を行う。

着目点

- ・概算にはなるが、2～3億円の負担になる
- ・国としては、若い世代向け予算としては目玉と考えている
- ・様々な政策を打ち出したが、出生率の改善にはつながっていないため、幼児保育料無償化を成功させて何としても、数値の改善につなげたい。
- ・地方負担は増えるが、地方消費税の増加分で十分に対応できる試算
- ・今後は国と地方を密接にしたい考えで、出前講座や聞き取りで出来るだけ国民に寄り添った政策を打ち出す
- ・地方への予算の配分など、計算方法も含め今後の課題と考えている

名張市において

負担は2～3億円増えるにしても、十分に地方消費税で賄えるというのは少し安心した。しかし、それで名張市の財政がよくなる訳ではないので、まだまだ今後の対策を考える必要がある。出生率の低下は日本全国の課題なので、市だけでなく国との間で課題解決にむけて声の交換が大切だと思う。国がもう少し地方に寄り添うことができれば、様々な解決のチャンスはあるので、是非とも出前講座の機会等を名張市で設けたいと思います。また、極端に低い名張市の地方交付税の金額も検討頂けるように提案はしたところ、今後の課題として一考頂けるとのことでした。